

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H26 入学	73.8			76.5			
現5年	(1.11)			(1.08)			
H25 入学	59.5	70	55	60.0	64	51	63
現6年	(0.97)	(0.99)	(1.02)	(0.92)	(1.02)	(1.00)	(1.03)
H30 正答率の全国比		(0.99)	(1.01)		(1.01)	(0.99)	(1.04)

◎5年時は佐賀県学習状況調査，6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率，下段()は，県平均を1としての比較。

◎「H30正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【現5年生】

■国語，算数ともに県平均を上回り，良好な状況である。4年時12月調査より正答率が高まっていることから，日々の取組が学力の確実な定着につながっていることがわかる。

《国語》

○特に「漢字の読み・書き」「ことわざ」「国語辞典の使い方」「ローマ字」などに関しては，日頃から授業や生活の中で触れる機会が多く，自主学習でも意欲的に取り組んでいる児童が多いため，正答率が高い。
 ▽文章の内容を踏まえ，適切に引用したり，目的に応じて文章を要約したりすることに課題が見られる。文末表現や中心となる言葉（キーワード）に着目した読み方を身に付けさせる必要がある。

《算数》

○特に「技能」は，「十分達成」のレベルにあり（84.1%），基礎・基本の習得ができています。
 立方体の展開図においては，100%の正答率であり，分度器を用いた角を求める設問も，94.9%と高い。
 ▽示された図を基に，伴って変わる二つの数量関係を捉えることができていない。示された図（問題）に考え方を書き込んだり，考えの道筋を表現したりする力を身に付けさせる必要がある。

【現6年生】

■国語，算数，理科ともに，県平均，全国平均並みの結果であった。昨年度と比べて伸びが見られることから，授業や「やる気タイム」の成果が表れている。国語は，B問題が県，全国を上回っていることから，活用問題にも積極的に取り組んだ成果が見られる。全授業において「書く活動」を意識的に取り入れてきたことも結果につながっていると考えられる。

《国語》

○5年時4月調査では県平均を下回っていた「読むこと」がA問題B問題とも県及び全国平均を上回っている。（A問題 県4.1↑全国2.2↑，B問題 県7.2↑全国7.5↑）
 ▽観点別にみると，A問題の「話す・聞く」「書く」「言語についての知識・理解・技能」は県及び全国平均を下回った。目的に応じて，複数の資料から必要な内容を取り上げて文章にまとめることに課題が見られる。主語と述語の関係や形式段落の中の文のはたらきの理解にも課題が見られる。

《算数》

○5年時4月調査では県平均を6.3ポイント下回っていた「数量関係」が，今年度はA問題で4.3ポイント，B問題で4.5ポイント上回っている。
 ▽観点別にみると，県及び全国平均との開きが大きかったのは，B問題の「数量や図形についての知識・理解」であった（県及び全国7.4↓）。前提場面や与えられた資料を活用して解くことができていない。立式の根拠や求めた数値が何を表しているのか説明する力を身に付けさせる必要がある。

《理科》

- 特にA区分の「エネルギー」は、県平均を10ポイント近く上回ることができている。
- 「主として『活用』に関する問題」は県平均を3ポイント（全国平均は2.8）上回っている。
- ▽観点別にみると、県及び全国平均を下回っているのは「観察・実験の技能」であった（県4.9↓、全国4.4↓）。学習で得た知識と観察・実験の結果から言えることを比較して表現することに課題が見られる。

【意識調査（5、6年）】

- ◇家庭学習については、5・6年共に全児童が「宿題をしている」と答えている。学習時間については、「1日当たり1時間以上」と答えた児童は、5年生75.7%（県60.8%）、6年生88.6%（県64.2%）と県平均を上回っており、学習習慣が定着してきている。しかし、「授業の予習（復習）」を「している」と答えた児童は5年生39.1%（県48.4%）、6年生54.5%（県60.1%）と県平均を下回っている。宿題だけでなく自主学習にも取り組むことができるよう、主体的に学ぶ意欲を高めていく必要がある。
- ◇テレビやビデオ、DVDの視聴については（5年生のみ調査）、「1日当たり2時間以上」と答えた児童が60.9%（県52.1%）であった。6年生も、放課後、テレビ視聴やゲームの時間の割合が高いことから、平日の家庭での過ごし方を見直す必要がある。
- ◇地域行事への参加率は、県に比べて高く（5年生92.7%、6年生72.7%）、地域とのつながりも深い。「人の役に立つ人間になりたい」と答えた児童も5年生95.1%、6年生100%と非常に高い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

①基礎基本の習得のための工夫

- ・「授業づくりのステップ 1・2・3 Vol11」や授業改善チェックリストを活用し、ステップ3を目指して授業づくりを行う。「話し合う活動」については、「Vol2」を参考にし、ステップ3を目指す。
- ・児童の主体的な活動による学習活動を保障し（教師が説明しすぎない）、45分で授業が完結するようにタイムマネジメントに留意する。【教師のタイムマネジメント力の向上】
- ・「何を問われているのか」、「着目する点はどこか」、「図、式、ことばの関連」、「文と文のつながり」などがわかるように、問題やノートに書き込む指導を行う。【書き込み指導の徹底】
- ・複数の情報の中から必要な情報を選んで書いたり、解いたりする問題設定や言語活動を仕組む。【資料を読み取る力の向上】

②思考力・判断力・表現力を高める工夫

- ・学ぶ意欲や知的な好奇心を高める問題提示を工夫する。【主体的な学びの実現】
- ・複数の考えを比較・分類させながら整理したり、さらに学びを深めるための観点を示したりしながら児童の考えを広げ深める学び合いを展開する。【対話的な学びの実現】
- ・習得した知識・技能を活用させる場や、学習と生活との関連を図る場を位置付けた単元構成や授業構成を仕組む。【深い学びの実現】

③望ましい学習習慣・態度の育成の工夫

- ・立腰教育を基盤にして学習規律の定着を図り、気持ちのよい「返事」「挨拶」「言葉遣い」「話を聴く姿勢」を全職員で徹底させる。【学びの土台づくり】

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・朝の時間は、（月）音読タイム、（火・木・金）「花まるタイム」の目的や実施内容を共通理解し、実施状況を情報交換することによって、基礎的な学力が向上するように改善を加えていく。【朝の時間の充実】
- ・学力向上強化月間（7・8月、11月、2月の「やる気タイム」）では、保護者や地域の方に学習ボランティアとして丸つけに来ていただくことで、児童の意欲をさらに高め、個別指導の充実を図る。また、内容を工夫し、習熟を図ったり、活用問題に取り組んだりする。【やる気タイムの充実】
- ・主体的に学ぶ力を育てるために、全校で自主学習に取り組む（3年生以上週に1回全校自主学習日の設定）。新聞の活用、テーマや条件を設定した日記、授業を振り返って自分の考えを書く活動など学年に応じた自主学習課題を提示し、活用力の向上を図る。【自主学習（宿題）の内容の工夫】
- ・「学力向上だより」を通じて、学校の取組や児童の学びの姿、学力向上に対する情報を家庭や地域に提供し、情報を共有することで、家庭・地域とともに児童のよりよい生活・学習習慣づくりに努める。【家庭・地域との連携・協働】
- ・教員同士が指導法について学び合ったり、教材研究をしたりする時間として「先生やる気タイム」「模擬授業研修」を確保し、指導力の向上を図る。【教員相互の学び合いの充実】